

🏠 企業は日本へ帰ってきた。でも「教室」が足りない

● 中級レベル

投資するお金があっても、「受け止める力」がなければ工場は増やせない

ここで少し、学校の話に寄り道してみましょう。

戦後の日本では、子どもの数が急に増えた時代がありました。

子どもが増えれば、学校へ通う人数も増えます。

ところが、子どもが増えたからといって、

翌日から学校を2倍にすることはできません。

教室が足りない。

先生が足りない。

机やいすが足りない。

校舎そのものも足りない。

つまり、

「必要とする人は増えた。でも、それを受け入れる能力が追いつかない」
という状態が起こります。

これを現在の日本経済に置き換えてみると、面白いことが見えてきます。

🏢 企業が「日本に工場を造ろう」と考えた

たとえば、ある半導体企業が、

「日本国内に新しい工場を造ろう」

と決めたとします。

資金もあります。

需要もあります。

政府の支援もあるかもしれません。

では、すぐに工場を造れるでしょうか。

そう簡単ではありません。

工場用地。

建設会社。

建設作業員。

製造装置。

技術者。

電力。

水。

材料。

物流。

こうしたものを全部そろえる必要があります。

つまり、

「投資したい」という気持ちとお金だけでは、設備投資は完成しないのです。

これが「教室不足」

学校に置き換えると分かりやすくなります。

企業の投資計画＝増えてきた生徒

だと考えてみましょう。

すると、

工場用地は校舎。

設備は机やいす。

技術者は先生。

電力や水は学校を動かすための設備。

物流は通学路やスクールバス。

どれか一つが大きく不足しても、学校はうまく動きません。

だから今回、

「企業は日本へ帰ってきた。でも『教室』が足りない」と表現してみます。

でした。「供給制約」

ここで中級編の新しい言葉です。

供給制約（きょうきゅうせいやく）

難しそうですが、意味はそれほど難しくありません。

簡単に言えば、

「欲しい人はいるのに、作ったり提供したりする能力が足りない状態」です。

たとえば人気のケーキ屋さんに 100 人のお客さんが来た。

でも 1 日に 50 個しか作れない。

お客さんは 100 人いる。

ケーキは 50 個しかない。

これも簡単な供給制約です。

工場でも同じことが起こる

企業 10 社が、

「工場を建てたい」

と思ったとします。

ところが建設会社には、

5 社分しか工場を建てる能力がない。

すると残りの企業は待たなければなりません。

これは、

お金がないから工場を造れない

のではありません。

工場を造る能力が足りないから、造れない。

ここが非常に重要です。

電気にも「教室の大きさ」がある

工場を建てる土地があっても、電力が足りなければ動かせません。

特に半導体工場や AI データセンターなどは、大量の電力を必要とします。

そこで企業が、

「ここに工場を造りたい」

と思っても、

地域の電力設備が対応できなければ、

変電所。

送電線。

発電設備。

などを増強する必要があります。

つまり、

工場への投資が、電力への次の投資を呼ぶ

ことがあります。

人が足りない場合はどうなる？

今度は人手不足です。

工場を造りたい。

でも建設作業員が足りない。

工場が完成した。

でも技術者が足りない。

そこで企業は対策を考えます。

給料を上げて人を集める。

社員を育てる。

仕事を効率化する。

ロボットを導入する。

AI や自動化設備を使う。

つまり、
人手不足

↓

賃上げ・人材育成

そして場合によっては、
人手不足

↓

省力化・自動化への設備投資

という新しい流れが生まれます。

 「不足」が次の設備投資を生む

ここが今回の大切なポイントです。

不足はもちろん困った問題です。

しかし経済では、

不足しているからこそ、そこへ新しい投資が必要になる
という面もあります。

たとえば、

電力が足りない

↓

送電・発電・蓄電設備へ投資する。

人手が足りない

↓

ロボット・自動化へ投資する。

物流が足りない

↓

倉庫・物流設備へ投資する。

半導体材料が足りない

↓

材料メーカーが工場を増強する。

つまり、

****「次に何が足りなくなるのか？」を探すことは、**

「次にどこへお金が流れるのか？」を探すことでもある**

のです。

これは NIGHT FLIGHT で、とても重要な観測方法になります。

 でも、不足すると値段も上がりやすい

ここで注意が必要です。
欲しい企業が 10 社ある。
でも工場を建てられる会社が 5 社分しか対応できない。
すると建設会社には、たくさんの注文が集まります。
材料もたくさん必要になります。
人も必要です。
そこで、
建設費が上がる。
材料価格が上がる。
人件費が上がる。
ということが起こる可能性があります。
つまり、
需要が供給できる量を上回ると、価格が上がりやすくなる
わけです。

ここで「インフレ」とつながってくる

これまで私たちは、
物価が上がること
を中心にインフレを見てきました。
でも企業の設備投資から見ると、
少し違う姿が見えてきます。
工場を造りたい会社が増えた。
↓
建設能力が足りない。
↓
人が足りない。
↓
材料も足りない。
↓
価格や賃金が上がる。
つまり、
経済活動が活発になった結果として起こる値上がり
もあるわけです。
ただし、値段が上がるだけでは「良いインフレ」とは言えません。
ここからが重要です。

値段が上がったあと、何が起こる？

建設会社の仕事が増えた。

適正価格で受注できた。

利益が増えた。

すると建設会社は、

新しい機械を買う。

社員を増やす。

給料を上げる。

人材を育てる。

ということが出来ます。

その結果、

以前は5社分しか工場を建てられなかった

会社や業界が、

将来は、

7社分、8社分を建てられる

ようになるかもしれません。

つまり、

不足 → 価格上昇 → 利益 → 設備投資 → 生産能力アップ

という流れが生まれます。

教室不足も同じ

学校で考えてみましょう。

生徒が100人増えた。

教室が足りない。

最初は困ります。

でも、

新しい校舎を建てる。

先生を増やす。

机を買う。

給食設備を増やす。

すると数年後には、

以前より多くの子どもを受け入れられる学校

になります。

つまり、

「足りない」という信号を見て、供給する側が大きくなる

わけです。

経済でも同じようなことが起こります。

⚠ **ただし、自動的に増えない**

ここは重要です。

不足したからといって、必ず設備投資が起きるわけではありません。

中小企業の社長なら、こう考えるでしょう。

「この注文は何年間続くの？」

「新しい機械を買って大丈夫？」

「銀行から借金しても返せる？」

「人を雇ったあと、仕事がなくなる？」

需要が一時的なものなら、大きな投資は危険です。

だから企業は、

「この需要は長く続くのか？」

を見えています。

🏢 **国内回帰も、中小企業には「冒険」**

ここで世界編の話とつながります。

かつて中小企業は、大企業の海外進出について海外へ出る決断を迫られました。

そして今度は、

「日本国内で生産能力を増やしてください」

と言われるかもしれません。

でも、新しい設備にはお金がかかります。

人も必要です。

借金も必要かもしれません。

つまり、

****海外へ出るのも冒険だった。**

国内で再び投資するのも、また冒険です。 **

だから大企業の国内投資だけで、

「日本復活！」

と判断するのはまだ早いのです。

💧 **「教室を増やせる会社」にお金が出るか**

本当に見たいのは、その先です。

大企業が工場を造る。

↓

建設・電力・材料・物流などが不足する。

↓
その分野に仕事が増える。
↓
企業に適正な粗利が残る。
↓
企業が設備投資する。
↓
供給能力が増える。
↓
さらに大きな仕事を受けられる。
この循環が始まれば、
「教室不足」が、「教室を増やす投資」へ変わります。

 **NIGHT FLIGHT** では「不足」をレーダーにする
ここまで来ると、少し面白い見方ができます。
半導体工場ができた。
そこで、
「すごい工場だなあ」
で終わらない。
次に考えるのは、
「この工場が動くと、次に何が足りなくなる？」
です。
電力？
水？
電線？
物流？
材料？
技術者？
住宅？
ロボット？
その「足りないもの」を探す。
すると、
次の設備投資の候補
が見えてきます。
これが NIGHT FLIGHT のレーダーになります。

🌟 中級レベルのポイント

企業が日本へ戻ってきても、
お金さえあれば工場を増やせる

わけではありません。

必要なのは、

土地

人材

建設能力

電力

水

設備

部品

物流

などです。

これらが足りなければ、

供給制約

が起こります。

しかし、その不足を解消するために新しい設備投資が始まれば、

不足

↓

仕事が増える

↓

利益が生まれる

↓

設備投資する

↓

供給能力が増える

という新しい循環が生まれます。

🔗 そして次の「？」へ

ここまで来ると、また疑問が出てきます。

不足しているものには注文が集まる。

すると値段が上がる。

賃金も上がるかもしれない。

企業は設備投資を始める。

では――、

「物価が上がることは、本当に悪いことばかりなの？」

そして、

「値段だけでなく、給料と投資も一緒に上がれば何が起こる？」

ここから次の区画、



「インフレ文化——日本に『値段』が戻る」

へつながります。



寄り道研究所

NIGHT FLIGHT SPECIAL II 【国内編】



中級レベル解説でした。

さらに、供給制約・設備投資・生産能力・人手不足・賃金・インフレがどう結びつくのかを詳しく見たい方は、



上級～一般教養レベルへ。



次の寄り道へ、ご搭乗ください。